

誰しをもてく

故大醫佐川方利先生口授

健全延命法

普及館發行

259

84

はしがき

延命を欲しても病氣と云ふ恐ろしい悪魔に  
罹つては延命は出来ない故に健全延命法の  
一端として故大醫佐川方利先生より口授  
得たる其法を誰にも分るようにならなく書  
のすから試に試て皆さん永く無病にして  
大なる幸福を得られん事をいのります

著者申す

明治  
42 2 4  
内容

# 健全延命法の解

著作者著

健全と云ひ延命と云ひ人皆な一日も齡の長  
からんことを望み年一年死に近づき死の途  
に免るべからざるを知ると雖も尙ほ汲々と  
して無味枯操の残をさへ惜むは蓋し人情の  
免がれざる所なり然り而して健全を守り延  
命を保つ可きの道を守るもの少し豈に矛盾  
の甚しき限りならずや夫れ人の延命を欲す

るは皆に命を惜しむの私情に非らず各人皆  
 な天賦の職業を全ふせんと欲するの然らし  
 むる所とす抑も人の短命なるは皆に各人の  
 一身の不幸のみならず社會に及ぼすの影  
 響實に大なるものならずや各人宜しく一身  
 の爲めのみならず社會の爲めに大に延命の  
 法を講ぜざるべからず而して世間此の法を  
 説く書多々あると雖も皆な大氣土地食物等  
 に分ち記述したるものくみなれば各自の位

置境遇によりて之れを實踐すること能はざ  
 るの恨みあり、今左に紹介する所の法は簡易  
 にして而も正確如何なる人にても實踐し得  
 らるゝの法にして、絶大の偉効を奏するもの  
 である、其の精神を爽快ならしめ、其の身体を  
 健全ならしめ、其の病氣を治療し又た健全な  
 るものには、轉ぬ前の杖となり柱となり所謂  
 病氣の豫防となるのである、

# 健全延命法

健全延命法は

一麝香 一分

一梅花龍腦 一分

一丁香 一分

一乳香 貳錢

一續斷 貳錢

一沒藥 貳錢

一附子 貳錢

一鹽 貳錢

右細末として混和す、

健全なるもの病氣を豫防せんと欲せば、

高さ一寸五分徑り一寸五分の木にて筒を造

り、之れを堅にして、白紙半枚の上に乗せ、筒の

外の、殘餘の白紙を筒の上方へ、引張り糊

りにて固着し、糸にて結び、つけるもよし、筒の

底として、其の筒の中へ、鹽一撮み入れ、筒の底

に平面になしをき、其の上へに前記の混和な

したる、物を五分の二二錢六厘を入れ、其の上へに、蕎麥粉を少し、はかり水にて、煉り菲く厚さ五厘程の平面に丸くして、筒の中へ入れ、其の上へに、懷爐灰一本の、半分ほどを入れて、點着て、筒の底の白紙の所を手指にて、試み手指に、微温を覺へば、臍部に靜かに押當つれば、得も、いわれむ、極く氣持がよろし、若しも、熱痛き様のこと、あらば筒を、取り退け、刻らくして熱痛き様のこと、ないようにしてするのである。

る、最つとも、仰きに臥してするのである、

回数、健全なるものは、一日に一回として、二三日繼續するのである、

遺尿、遺精、白帶下等の患者は、臍部より、氣海丹田等に、一日一回して二日休み四日目に至りて、するのである、

腹痛なれば其の腹部の疼痛する所に、腰痛なれば、腰部の疼痛する所に、押當るのである、

前記の麝香、丁香、梅花龍腦、續斷、此四品を除き

乳香、沒藥、附子、鹽此の四品を前記の法の如く筒に入れ、疼痛の所に押し當ても、よろし。

又た前記の混和の麝香、梅花龍腦、丁香、續斷、乳香、沒藥、附子の七品を除き、鹽のみ二々撮みはど筒に入れ、前記の法の如く、筒の底に白紙を敷き疼痛する所に押し當るのも、至極簡便のことである

健全延命を欲する人は幸に試みに試みて健全を保ち競争社會に立ち永く無病にして利

益を得られん事に務めらるべし。

## 健全延命法 終

259  
84

明治四十二年一月廿九日印刷  
明治四十二年二月三日發行

定價五拾錢

不許  
複製

神戶市下山手通六丁目百六番屋敷

著作兼  
發行者 師岡完太

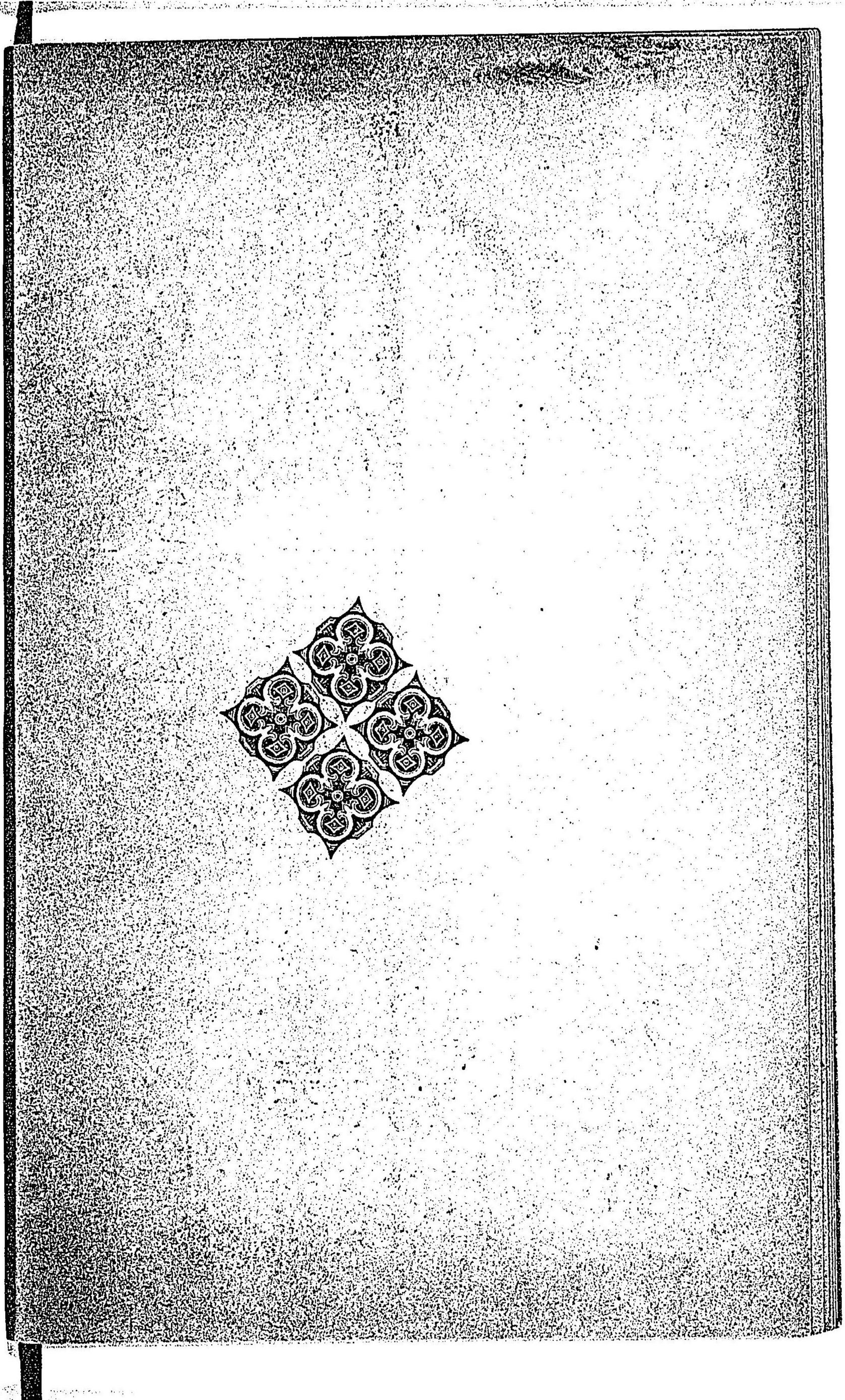
神戶市多聞通二丁目百四十三番屋敷

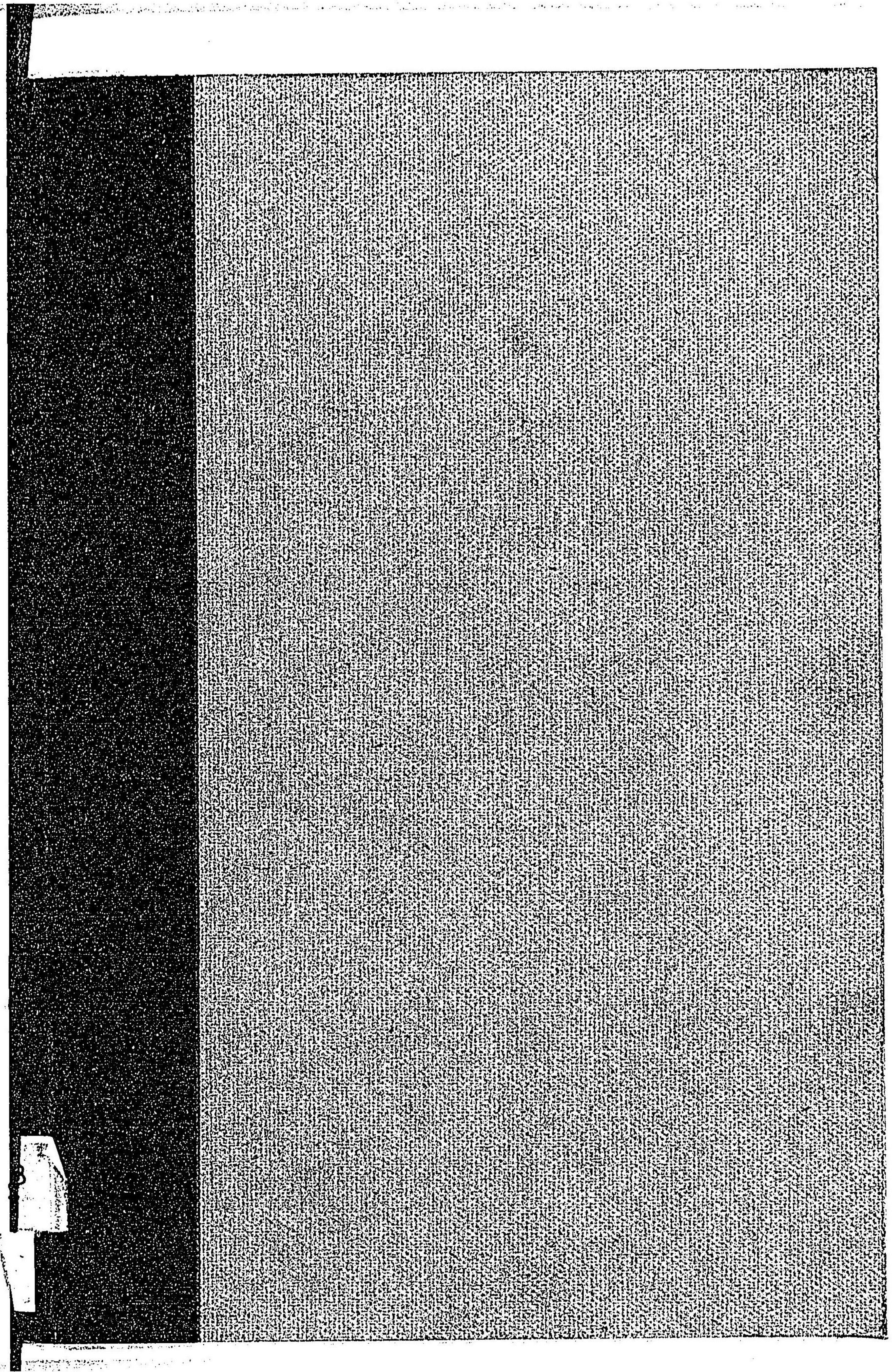
印刷者 西村岩太郎

神戶市下山手通六丁目百六番屋敷

發行所 普及館







長生不死の妙法

健全延命法

飲食養生鑑

国立国会図書館

060493-000-8

特28-52

健全延命法

佐川 方利/述

M42

CBM-0336



特